

論文番号 6

担 当

国税庁 醸造研究所

題 名 (原題/訳)

Effect of consumption of red wine, spirits, and beer on serum homocysteine.

赤ワイン、スピリッツ、ビールの消費の血清ホモシステインへの影響

執筆者

Martijn S van der Gaag, Johan B Ubbink, Pekka Sillanaukee, Seppo Nikkari, Henk F J Hendriks

掲載誌 (番号又は発行年月日)

The Lancet 355 (1522) 2000

キーワード

赤ワイン、スピリッツ、ビール、血清ホモシステイン、ビタミン B₆

要 旨

適度な飲酒はホモシステインの代謝に影響を及ぼし、それらの影響は飲料に特異的であることを示すため、無作為、食事統制交差試験を行い、4杯の赤ワイン、ビール、スピリッツ（ダッチジン）または炭酸水（対照）を夕食時に飲ませた。さらに、無作為な順番で3週間ごとに飲料を交換し、12週間行った。なお、アルコール摂取量は毎日40g相当（水の期間を除く）したが、肝臓酵素の活性には影響しなかった。

ホモシステイン濃度は、赤ワインとスピリッツ消費後、水と比較してそれぞれ8%、9%上昇し、一方ビールでは増加はしなかった。ホモシステインのこの程度の増加は、心血管疾患（CVD）危険性が10-20%増加するのとは一致する。但し、適度なアルコール摂取はCVD危険性を下げるため、適度な飲酒の心臓を保護する影響はホモシステイン濃度による危険性より大きい、またわずかで一時的なホモシステイン濃度上昇はかえって有効と考えられる。

また、ホモシステイン濃度はどちらもビタミンB群に依存しているため、葉酸、ビタミンB₆とビタミンB₁₂の血漿値上での飲料特異性の影響を評価した。

ホモシステイン値の変化とビタミンB₁₂または葉酸の変化に相関は見られなかった。血漿ビタミンB₆は、ビールの消費で約30%増加した。

これらの結果、血清ホモシステインは適量の飲酒において赤ワインおよびスピリッツは増加するが、ビールでは増加しない。また、その要因としてビール中のビタミンB₆がアルコールに誘導される血清ホモシステイン増加を防いでいる影響と推測した。